

## 論文要旨

### I. 研究目的

本研究の目的は、東日本大震災において、被災地外から派遣された災害派遣看護師が所属組織から必要とした支援、および看護部長の災害派遣看護師に対する支援の実態を記述し、それらの構造を明らかにすることである。そして、災害派遣看護師が必要とする支援を提供するための方策について示唆を導き出す。

### II. 研究方法

2011 年 2 月から同年 9 月の期間に、関東圏内にある医療施設から東日本大震災の被災地に派遣され、医療支援活動に 3 日間以上従事した災害派遣看護師 14 名、および被災地に看護師を派遣した経験のある看護部長 8 名を対象に半構造化面接を実施した。面接内容は、グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いて分析を行った。

### III. 結果

災害派遣看護師が所属組織から必要とした支援は、コアカテゴリー『災害派遣看護師のニーズの実態を捉えながら必要な支援を導き出す』を基盤に、4 つの主要カテゴリー、① [予測と実態把握から必要な支援を見出す]、② [連携を緊密にし支援体制を強化する]、③ [災害派遣看護師への心理的支援を重視する]、④ [災害医療に対する関心と知識の底上げを図る] によって構造化された。一方、看護部長の災害派遣看護師に対する支援は、コアカテゴリー『災害派遣看護師のニーズを予測し先回りして負担軽減を図る』を基盤に、前述の災害派遣看護師の主要カテゴリー①～③と同様の主要カテゴリー、および [効果的な災害対応のための備えをする] の 4 つの主要カテゴリーによって構造化された。そして、両者の支援の構造を比較した結果、災害派遣看護師は所属組織から必要としていた支援を十分に受けていなかったことが明らかとなった。

### IV. 結論

災害派遣看護師が所属組織から必要としていた支援を受けることができなかった背景には、災害派遣看護師は仕事上では弱音を吐けなかったことや所属組織側とのコミュニケーション不足が要因として示唆された。災害派遣看護師が、ニーズに合った支援を所属組織から得るには、所属組織が災害派遣看護師に対してより踏み込んで関わり、災害派遣看護師が必要としている支援の実態を捉えながら支援していくことが必要であると考えられた。